

平成22年度 総務省

「ICT メディアリテラシー育成に関する
指導内容等についての調査研究」

<指導資料>

平成23年3月

<目次>

1. 運用マニュアル.....	1
1.1. はじめに	1
1.2. 授業・セミナーのフロー.....	2
1.3. Plan（授業・セミナーの設計、事前準備）	2
1.4. Do（授業・セミナーの実施）	3
1.5. See（指導後のフォロー）	4
1.6. 教材の構成と活用のポイント	4
2. 指導マニュアル「TPO に応じたメールマナー」	5
2.1. テーマ	5
2.2. 対象.....	5
2.3. ビデオクリップ（あらすじ）	6
2.4. 授業・セミナーの学習目標	6
2.5. 指導の展開例.....	7
2.6. 補助教材	10
2.6.1. ビデオクリップ（シナリオ）	10
2.6.2. ワークシート.....	17
2.6.3. 掲示用スライド	20
3. 指導マニュアル「『調べ学習』でのネット活用」	23
3.1. テーマ	23
3.2. 対象.....	23

3.3.	ビデオクリップ（あらすじ）	23
3.4.	授業・セミナーの学習目標	24
3.5.	指導の展開例.....	25
3.6.	授業を構成する際の参考情報	26
3.7.	補助教材	27
3.7.1.	ビデオクリップ（シナリオ）	27
3.7.2.	ワークシート.....	33
3.7.3.	掲示用スライド	36
4.	参考資料	38
4.1.	新たなウェブサービスと学習利用.....	38
5.	保護者の方へ	39

1. 運用マニュアル

1.1. はじめに

子どもたちがインターネットや携帯電話などの ICT メディアを日常的に利用するようになり、生活における位置づけが大きくなるとともに、ICT メディアに関連したさまざまな事件やトラブルが発生するようになりました。一方、こうした“影”の部分だけでなく、日進月歩の技術革新によって、ICT メディアを使った多様なコミュニケーションや表現が可能になるなど、情報化社会において ICT メディアが果たす役割や有用性といった“光”の部分が注目されています。

こうした状況を踏まえて、本書では、ICT メディアの健全な利用の促進に資することを目的として、中学生・高校生を主な対象とした、メールによるコミュニケーション、情報化社会への主体的な参加、インターネットの特性を踏まえたクリエイティビティ（創造性）、クリティカルシンキング（情報を批判的に読み解く能力）に関する能力向上を図るための具体的な指導内容を提示しています。

本書は、学校の授業や地域で開催されるセミナー、家庭等において、指導者や保護者が利用することを前提として、「運営マニュアル」、「指導マニュアル」、「保護者の方へ」で構成されています。

「運営マニュアル」は、「Plan（授業・セミナーの設計、事前準備）」→「Do（授業・セミナーの実施）」→「See（指導後のフォロー）」というフェーズに分け、指導者や保護者がフェーズごとに実施する事柄についてまとめています。

「指導マニュアル」は、「TPO に応じたメールマナー」と「『調べ学習』でのネット活用」の2つのテーマについて、「テーマ」、「授業・セミナーの学習目標」、「指導の展開例」などの内容で構成されています。「指導の展開例」には、授業やセミナーの展開に応じた所要時間の目安、ワークシートなどの資料の配布のタイミング、スライドを切り替えるタイミングなどを記してあります。また、総務省の「教育の情報化推進ページ」¹からダウンロードして利用できる、ビデオクリップ（シナリオ）、ワークシート、掛図などの補助教材の一覧を掲載しています。

最後に、「保護者の方へ」と題して、本教材をきっかけとして、保護者と子どもたちが日常生活の中で ICT メディアとの関わりについて一緒に考えるためのポイントを記述しています。

この指導資料は、インターネットや携帯電話などの ICT メディアに関する知識やスキルが十分とはいえない指導者や保護者でも、ビデオクリップやワークシートなどの補助教材を使いながら、一定レベルの指導ができるように工夫されています。中学校や高校の授業だけでなく、地域で開催されるセミナーや家庭での指導の際に、ご活用ください。

指導資料を使って「メールによるコミュニケーション」や「インターネットを使った調べ学習」に関する授業・セミナー等を円滑に実施できるようになることを願っております。

¹ 総務省の「教育の情報化推進ページ」

(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/index.html)

1.2. 授業・セミナーのフロー

授業・セミナーのフローは次のとおりです。

- ① Plan（授業・セミナーの設計、事前準備）
- ② Do（授業・セミナーの実施）
- ③ See（実施後のフォロー）

このフローに沿って説明します。

1.3. Plan（授業・セミナーの設計、事前準備）

(1) 授業・セミナーの設計

- ✧ 2.5 及び 3.5 の「指導の展開例」を参照し、指導の流れを確認します。
- ✧ 3.6 の「授業を構成する際の参考情報」や 4.1「新たなウェブサービスと学習利用」、文献・インターネットなどを活用して、ICT メディアに関する最近の動向や子どもたちの ICT メディアの活用状況について把握します。

(2) 補助資料（ワークシートなど）の準備

下記の資料を総務省の「教育の情報化推進」ホームページ

(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/index.html) から

ダウンロードします。それぞれの利用方法は次のとおりです。

- ✧ ビデオクリップ（映像教材）…物語に沿って問題点や学習のポイントを提示します。
- ✧ ワークシート…学習者の人数分コピーして配布し、ビデオクリップの視聴に合わせて、学習者に記入させます。
- ✧ 掲示用スライド…スクリーンなどに映すか、黒板に貼り出して、登場人物やシーン、学習のポイントなどのおさらいに使用します。
- ✧ シナリオ…映像教材の絵コンテとセリフを掲載しているので、指導者が授業・セミナーを設計する際に利用します。

(3) 機器類の準備

- ① コンピュータ、スクリーン、プロジェクター、スピーカーなどを用意します。
- ② コンピュータにビデオ再生ソフト（Windows Media Player など）、PowerPoint がインストールされていることを確認します。

(4) 機器類の設営と事前確認

- ① スクリーンを設置します。
- ② コンピュータ、プロジェクター、スピーカーを接続します。
- ③ コンピュータとプロジェクターを立ち上げます。
- ④ プロジェクターに投影されるかどうか確認します。
操作方法は、コンピュータの機種によって異なります。
- ⑤ ビデオクリップを立ち上げ、動作を確認します。
音声スピーカーから出るかどうかを確認します。
- ⑥ PowerPoint のスライドが動作するかどうかを確認します。

(5) 教室環境の設営

- ① ビデオクリップがスクリーンに投影され、きちんと見えるかどうかを確認します。
明るければ、カーテンまたは暗幕を引きます。カーテンが備えつけられていない場合、暗くなるように事前に用意してください。
- ② 話し合い（グループディスカッション）を行うため、5人～6人で1グループになるように、島に分け、机、椅子を並べておくとよいでしょう。

1.4. Do（授業・セミナーの実施）

後述する「指導マニュアル」に沿って、授業・セミナーを進めてください。

1.5. See（指導後のフォロー）

- ✧ 学習者がワークシートに記入した事柄についてクラスで話し合ったり、指導者がコメントを書いたりするなどのフィードバックを通して、学習した事柄の定着を図りましょう。
- ✧ ワークシートを家庭に持ち帰り、保護者の方と話し合って日常生活を振り返りましょう。

1.6. 教材の構成と活用のポイント

本教材は、主に高校生を想定して制作した「TPO に応じたメールマナー」と主に中学生を想定して制作した「『調べ学習』でのネット活用」の2本立てで構成されており、それぞれ「メールによるコミュニケーション」と「インターネットを使った調べ学習」の適切な方法について学習できます。

これらは相互補完的に組み合わせて学習することもできます。例えば、インターネットで調べ学習をする際に、より正確で新しい情報を得るためには、人に聞くことも有効ですが、先方が遠くにいたり多忙な場合には、メールで問い合わせた方がよい場合もあります。そのため、「『調べ学習』でのネット活用」を学習した後に、発展学習として「TPO に応じたメールマナー」を学習することで、学習効果をより高めることができます。

2. 指導マニュアル「TPO に応じたメールマナー」

2.1. テーマ

中高生のコミュニケーション手段として、友人・家族といった身近な相手とのコミュニケーションでは携帯電話による「メール」の使用が大半を占めますが、最近では中高生向けの携帯利用の指導等も充実しており、身近な相手であっても、不満を伝える、謝るといった緊迫した場面では「直接話す」といった手段を選ぶ等、状況に応じてコミュニケーション手段を使い分けられる生徒も少なくありません。次のステージとして、学年が上がり、学校を卒業すると、コミュニケーションの対象が広がっていきます。ICT メディアの主要なコミュニケーション手段である「メール」を使って、身近な人以外とのやりとりをする機会も増えていきます。そこでは、「TPO」(Time, Place, Occasion) に応じたメールマナーがますます求められます。TPO に応じたメールマナーを中高生のうちから意識することで、実社会の中で主体的にメールを使いこなす力を養うことが期待できます。

このような背景を踏まえ、ICT メディアリテラシー学習項目における下記の能力を育成することを目的とします。

- ✧ メールによるコミュニケーションのポイント
- ✧ 情報化社会への主体的参加

2.2. 対象

学校や家庭で実施する場合、中学生・高校生を対象とします。

ビデオクリップの設定背景は高校生向けですが、中学生でも利用できます。

2.3. ビデオクリップ（あらすじ）

西高バスケット部副キャプテンの宮下とキャプテンの高橋は、チーム強化のため、隣校のように社会人のOBにコーチに来てもらえないだろうか考えた。直接の知り合いもいなかったため、まずは“よっしー”こと大学生の吉田先輩に相談することを思いつく。早速、吉田先輩から全国大会出場経験のある、現在は社会人の小林先輩のメールアドレスを聞くことができたため、宮下は練習参加お願いのメールを送った。あっさりと小林先輩から練習参加を承諾したとの返信メールが届き、浮かれていた宮下のもとに、なぜか吉田先輩から困惑のメールが届いた。

2.4. 授業・セミナーの学習目標

メールの特性を踏まえ、TPOに応じたメールマナーを学びます。

- ◇ メールによるコミュニケーションの特徴や留意点等の理解を深めます。
- ◇ 状況に応じたコミュニケーション手段の使い分けの必要性を意識します。
- ◇ 社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識します。

2.5. 指導の展開例

流れ	時間	学習活動	指導上、運営上のポイント	備考
導入	5分	<p>【挨拶等】</p> <p>【アンケートの実施】</p>	<p>【授業実施前アンケートを配布】</p> <p>アンケートを記入させることによって、生活の中で自分がどのようにメールを利用しているかを意識させるようにする。</p>	<p>以前にメールに関する学習を行ったことがあれば簡単に振り返りを行い、生徒にメールのマナーについて学習することを意識づける。</p>
展開1	5分	<p>【映像視聴】</p> <p>ビデオクリップを視聴する。</p>	<p>「吉田先輩は宮下くんが送ったメールにどんな指摘をしたでしょうか」と画面に表示された時点で映像を一時停止する。</p>	
	10分 (30分)	<p>【実習1と講義】</p> <p>①ワークシート1の1-(1)に記入をする。</p> <p>②気がついた問題点について発表を行う。</p> <p>③ワークシート1の1-(2)に記入をする。</p>	<p>【人物関連図のスライドを提示】</p> <p>人間関係が理解しやすいように人物関連図のスライドを提示し、簡単に説明する。</p> <p>【送信メールのスライドを提示】</p> <p>宮下くんが送ったメールの内容を振り返り、気がついた問題点についてワークシートに記入させる。</p> <p>生徒に発言させ、問題点について共通理解を図る。</p> <p>どのようにすれば適切なメールになるかを各自で考えて記入するように指示する。</p>	<p>グループワークが実施できる場合には、いずれの学習活動も各グループで意見をまとめ発表する形式にしてもよい。</p>
	3分	<p>【映像視聴】</p> <p>一時停止したビデオクリップの続きを視聴する。</p>		

流れ	時間	学習活動	指導上、運営上のポイント	備考
	7分	【実習2と講義】 ①ワークシート1の1-(2)を自己採点する。 ②TPOについて説明を聞き、理解を深める。	【見本メールのスライドを提示】 採点箇所(言葉遣い、日時を入れるなど)を示し、必要な点が文面にあるかどうか確認させる。 T: time…時間、P: place…場所 O: occasion…場合 という用語を板書し、「時間、場所、場合」に応じて言葉やマナーなどを使い分けるといふことが必要であることを説明する。	(1時間目終了)
展開2	8分 (25分)	【実習3と講義】 ①ワークシート2の2-(1)に記入をする。 ②ワークシート2の2-(2)に記入をする。 ③気がついた問題点について発表を行う。	メール文面だけでなく、メールを活用する上でのマナーについて考えさせる。 生徒に発言させ、問題点について共通理解を図る。	(2時間目開始) 2時間の授業で実施する場合は、最初に5分程度の時間をとって前回の内容を復習する。 グループワークが実施できる場合には、それぞれのケースの問題点および改善点を発表させる形式にしてもよい。
展開3	8分 (15分)	【実習4と講義】 ①ワークシート2の3に記入をする。 ②コミュニケーションについて説明を聞く。 ③ワークシート2の4に記入をする。	メールマナーだけでなく、必要に応じてコミュニケーションの方法を変える必要があることを意識づける。 学習内容が定着するように授業の感想を記入させることで振り返りを行う。	生徒の実態にあわせて意見を交換する形式にしてもよい。

流れ	時間	学習活動	指導上、運営上のポイント	備考
まとめ	4分 (10分)	<p>【講義】 「TPOという言葉が意味することは何か」について説明を聞き、さらに理解を深める。</p> <p>【まとめ】 情報化社会に生きる私たちは、その特性を正しく理解し、さまざまな情報機器を適切に利用するとともに、状況に応じて行動できることが必要であることを理解する。</p>	TPOとは言葉だけでなく、行動や服装など含め、状況に応じて適切なふるまいをすることであることを説明し、学習の定着を図る。	

※注1 1授業時間は50分の授業を想定した指導案となっている。

※注2 括弧内にある時間は2授業時間で実施した場合の想定時間である。

2.6. 補助教材

2.6.1. ビデオクリップ（シナリオ）

【TPOに応じたメールマナー】

「TPOに応じたメールマナー」

◆あらすじ

西高バスケ部副キャプテンの宮下とキャプテンの高橋は、チーム強化のため、隣校のように社会人のOBにコーチに来てもらえないだろうか考えた。直接の知り合いもいなかったため、まずは“よっしー”こと大学生の吉田先輩に相談することを思いつく。早速、吉田先輩から全国大会出場経験のある、現在は社会人の小林先輩のメールアドレスを聞くことができたため、宮下は練習参加お願いのメールを送った。あっさりと小林先輩から練習参加OKの返信メールが届き、浮かれていた宮下のもとに、なぜか吉田先輩から困惑のメールが届いた。

◆登場人物

○西高バスケ部員

宮下…本作の主人公。西高バスケ部2年副キャプテン。明るい性格だがおっちょこちょいな一面も。



高橋…宮下の親友で同じくバスケ部2年。しっかり者の頼れるキャプテンとしてチームを引っ張る。



○西高バスケ部OB

吉田…西高バスケ部OBで、現在大学生。後輩から“よっしー”と呼ばれるほど親しみやすい先輩。





小林…西高バスケ部OBで、現在社会人。高校の時には全国大会に出場している凄腕の大先輩。



【TPOに応じたメールマナー】

◆シナリオ

No.	イメージ	セリフ
1		○体育館 練習しているバスケ部員。 <タイトル：『TPOに応じたメールマナー』>
2		○部室 部室に戻る宮下と高橋。 宮下「キャプテン、今日もお疲れ様。」 高橋「おう、お疲れ。三年も引退したことだし、新人戦に向けて気合い入れていかないとな！副キャプテン。」 宮下「おう！あ、そうそう、東高のこと聞いた？」 高橋「なんだっけ？」 宮下「中学の同級に聞いたんだけど、最近、土曜日の練習に昔、全国行った社会人のOBがコーチに来てるんだって。」 高橋「はー（ため息）、これで俺らの代も東高には勝てずかー。俺らもコーチ欲しいよなー。誰かいい人いないかな？」 宮下「うーん…あっ！、”よっしー”に聞いたら知ってるかも！ちょっとメールしてみるよ。」
3		○体育館（回想） レイアップシュートを外して苦笑いしている吉田。 宮下（モノローグ） 「よっしーこと、吉田先輩は俺らが1年の時の3年で今は大学生。バスケのプレーはからっきしだけど、面倒見がよく、”よっしー”と呼べるほど親しみやすい先輩だ。」
4		○メール 宮下から吉田へのメール。 宮下（メール） 「（おつかれです（絵文字）） よっしーさん、おひさです（絵文字）彼女できましたか？（絵文字）ちょっと聞きたいんですけど、西高のOBでコーチお願いできる先輩とかいないっすかね？東高が昔、全国出たOBにコーチをお願いしてるらしく、俺らもコーチ欲しいんっすよねー。」 ○部室 おしゃべりしている宮下と高橋。 メール着信音。携帯電話を見る宮下。 宮下「はやっ!?よっしーからもう、返信来た（笑）」

【TPOに応じたメールマナー】

No.	イメージ	セリフ
5		<p>○メール 吉田から宮下へのメール</p> <p>吉田（メール） 「（Re：おつかれです（絵文字））俺がコーチしてやりたいとこなんだけど、週末はデートで忙しいから悪いな。」</p> <p><インサート：苦笑する宮下と高橋></p> <p>吉田（メール） 「そうだなー俺が高校の時にたまに練習に来てくれた小林先輩は確か全国行ってるぞ。今はもう社会人かな？めちゃうくちゃうまいし、いい先輩だから、きっと力になってくれるよ。メアド教えるから連絡してみる？「****@▲▲.ne.jp」かわいい後輩から直接お願いしたらきっと協力してくれるよ！」</p> <p>○部室 宮下の携帯電話をのぞいている高橋と宮下。</p> <p>高橋「さすが、よっしー！こういう時は頼りになる！」 宮下「そしたら、俺から小林先輩にメールしてみるよ！よし、今日はもう遅いからそろそろ帰ろうぜ。」</p>
6		<p>○宮下の部屋 2階の自分の部屋に移動する宮下。</p> <p>宮下「ごちそうさま！」</p> <p>部屋に入りメールに気がつく宮下。</p> <p>宮下「おっ！早速、小林先輩から返信来てるじゃん！」</p>
7		<p>○メール 小林から宮下へのメール。</p> <p>小林（メール） 「（連絡ありがとう）後輩くんへ。小林です。練習はいつですか？来週の土曜日だったら時間があるので、練習に参加してもいいですよ。」</p>
8		<p>○宮下の部屋 飛び上がる宮下。</p> <p>宮下「よっしゃー！これでうちのバスケ部も強くなるぞ！さあ一週から忙しくなるぞー♪そうさうだ、今のうちに勉強でもしとくかな♪」</p> <p><ベッドの上に放置される携帯></p> <p>勉強している宮下。メール着信音。</p> <p>宮下「誰だよー人が気分良く勉強でもしようかと思ってたのに…てか、よっしーかい！」</p>

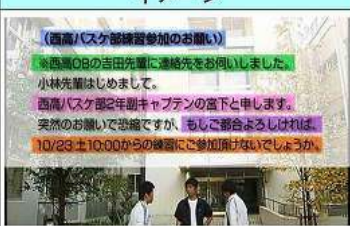


【TPOに応じたメールマナー】

No.	イメージ	セリフ
9		<p>○メール 吉田から宮下へのメール。</p> <p>吉田 (メール) 「(やっちまったかー) おい (絵文字で「怒り」)、小林先輩にどんなメール送った??」</p> <p>○宮下の部屋 不思議がる宮下。</p> <p>宮下「心配性だなあー、でも、御礼言っとかないとな。」</p> <p>メールに返信する宮下。</p>
10		<p>○吉田の部屋 メール着信音。メールを見る吉田。</p> <p>○メール 宮下から吉田へのメール。</p> <p>宮下 (メール) 「(Re: やっちまったかー) ?…練習に参加してくれるって返信ありましたよ! 紹介サンキューでした (絵文字) 転送しますねー。」</p> <p>宮下 (メール) 「Fw: (無題) 小林先輩初めまして (絵文字でピース)。西高バスケット部の後輩です。小林先輩、高校の時に全国行ってますよね? (絵文字) 暇だったら一度、練習に来てもらえませんか?お待ちしてます (絵文字)」</p> <p>○吉田の部屋 理由が分かった吉田。</p> <p>吉田「そういうことか…。」</p> <p>携帯を片手に苦笑。直前の出来事をオーバーラップ。</p>
11		<p>○吉田の部屋 (回想) 部屋に入る吉田。メール着信音。 携帯電話を見る吉田。</p> <p>吉田「小林先輩か。」</p> <p>○メール 小林から吉田へのメール。</p> <p>小林 (メール) 「(小林です) 久しぶり。元気? そうそう、後輩にメアド教えたの吉田でしょ? ちょっと指導が足りてない (絵文字) ちよっと指導が足りてない (絵文字)」</p>

【TPOに応じたメールマナー】

No.	イメージ	セリフ
12		<p>○吉田の部屋（回想） 10分前の出来事。電話をかける吉田。</p> <p>吉田（電話） 「小林先輩、ご無沙汰しております。吉田です。先輩のメールアドレスを宮下に教えたのは自分です。あの後輩が何か失礼をしましたでしょうか…。」</p>
13		<p>○通り（回想） 通りを歩きながら電話で話す小林。</p> <p>小林（電話） 「いやいや、それよりも吉田も来週の土曜日空いてるなら参加しなよ。時間は土曜だから午前でいいのかな？その後、返信もなかったから結局どうすればよいか分からなくてさ。」</p> <p>吉田（電話） 「もっ、もちろん参加させていただきます。小林先輩にお会いできることを楽しみにしております。時間の連絡もなかったんですか…。後輩には自分の方からきちんと指導しておきますので、どうぞよろしくお願いします。失礼します。」</p> <p>電話を切る吉田。</p> <p>吉田「宮下のやつ…。」</p> <p>宮下にメールをする吉田。</p> <p><フェードアウト：宮下の部屋で鳴り響く携帯></p>
14		<p><テロップ：「吉田先輩は宮下くんが送ったメールにどんな指摘をしたのでしょうか。」></p>
15		<p>○校庭 宮下と高橋を校庭に呼び出した吉田。</p> <p>吉田「宮下、お前が小林先輩に送ったメール、どこに問題があるか気づいてるか？小林先輩は同年代の友達でもなければ、俺のように親しい先輩でもない。しかも面識もない。お前が送ったメール、少なくとも5つは問題点あるぞ。そんなこっちゃ、これから大学生・社会人になると困ります。そこで、吉田先輩が特別に講義してあげましょー（したり顔）」</p> <p>見本となるメールを書いた自分の携帯を見せる吉田。</p>

【TPOに応じたメールマナー】

No.	イメージ	セリフ
16		<p>○校庭 宮下と高橋に講義する吉田。講義を聞く宮下と高橋。</p> <p>吉田 (ナレーション) 「まず、「題名を端的に」相手が忙しくても一言で何のことか分かったりやりとりがスムーズになるだろ。」 「次に、「名前をきちんと名乗る」どこの誰だか分からないと困るでしょ、基本です。」 「また、「メールアドレスを誰から聞いたか記載」出所をはっきりさせないと不審がられるぞ。」 「そして、「用件を明確に」何のために練習に行くのか、いつ行けばよいか不明確。」 「最後に、「言葉遣いを丁寧に」暇だったらじゃなくて、ご都合よろしければ。」</p>
17		<p>○校庭 講義のまとめをする吉田。</p> <p>吉田「ただ、いつでも、誰に対してもきっちりとしたメールを送ってことじゃないぞ！服装と同じ。いつも正装じゃないでしょ？「TPO」つまり、時間・場所・場合に応じて、自分が送ろうとしているメールを見直す習慣や状況に応じたルールやマナーを身に付けることが大事かな。本日の講義はここまで！さあ、部活、部活！先輩、いらっしやるぞー。」</p> <p>体育館に向かって走り出す3人。</p>
18		<p>○体育館 小林先輩の指導を受けてダッシュするバスケット部員。 小林先輩にそそくさと近寄る宮下と高橋。</p> <p>宮下「本日はお休みの日に朝早くから練習に参加して頂きましてありがとうございます。あのー先日は失礼なメールをすいませんでした。」 小林「ん？その様子は吉田先輩からしっかりとご指導頂いたみたいだな。それじゃー俺の方からもみっちりとしごかせてもらおうかな！はい、ダッシュ、ダッシュ！（笑顔）」</p> <p>走り出す宮下と高橋。</p> <p>小林「後輩のミスは先輩の責任。吉田、お前もダッシュな！」 吉田「えー俺もですか!?(苦笑)」</p> <p>小林に促され、ダッシュする吉田。</p> <p><フェードアウト></p>

【TPOに応じたメールマナー】

No.	イメージ	セリフ
19		<p>○メール 宮下から小林へのメール。</p> <p>宮下（メール） 「（練習参加ありがとうございました） 小林先輩 西高バスケ部の宮下です。本日は練習に参加して頂きましてありがとうございました。もし、よろしければこれからもお時間のある時にご指導頂けないでしょうか。」</p> <p>小林（メール） 「（もちろん！） 一緒に全国を目指そう（絵文字）」</p>
20		<p>○部室 小林からのメールを見て安堵する宮下と高橋。</p> <p><完></p>

2.6.2. ワークシート

生徒

【TPOに応じたメールマナー】

授業実施前アンケート

年 組 番 名前 _____

以下の質問について、() 内に○もしくは該当する内容を記入して下さい。

1. 普段、何を使ってメールをしていますか。
 携帯とパソコン両方
 主に携帯
 主にパソコン
 メールをしない →質問は以上です。
2. 平均して1日(平日)にどれくらいの頻度でメールのやりとりをしていますか。
 1日に数十件以上
 1日に数件程度
 1日まったくしないこともある
3. メールによるコミュニケーション(書き方、表現、誤解等)で失敗したことや困った経験はありますか。
 はい (内容: _____)
 いいえ
4. 身近な人(友人・家族など)とのメールによるコミュニケーションは適切に対応できていると思いますか。
 とてもそう思う
 そう思う
 どちらともいえない
 そう思わない
 まったくそう思わない
5. 相手や状況に応じて、メールの内容や表現を使い分けられていると思いますか。
 とてもそう思う
 そう思う
 どちらともいえない
 そう思わない
 まったくそう思わない
6. 状況に応じて、コミュニケーション手段(メール、電話、直接話す等)を使い分けられていると思いますか。
 とてもそう思う
 そう思う
 どちらともいえない
 そう思わない
 まったくそう思わない

【ワークシート1】

テーマ：「TPOに応じたメールマナー」

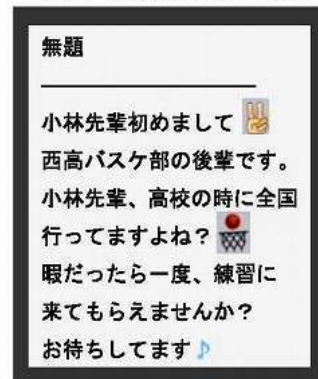
年 組 番 名前 _____

1. 宮下くんが社会人である小林先輩に送ったメールにはいくつか適切でない部分があります。

(1) 宮下くんが送ったメールの中で改善したほうがよい部分を指摘してみましよう。また何がいけなかったのか、あなたの意見を記入してみましよう。

改善点	理由
・	・
・	・
・	・

<宮下くんが送ったメール>



(2) あなたが宮下くんなら社会人である小林先輩にどのようなメールを送りますか。実際に下記に記入してみましよう。

件名 (_____)
本文

【ワークシート2】

テーマ：「TPOに応じたメールマナー」

年 組 番 名前 _____

2. 映像の中にあった次のシーンについて、あなたはどのように考えますか。
問題点があれば指摘してください。また、その場合、どのようにすれば良かったのか、あなたの意見を記入してみましょう。

(1) 吉田先輩が直接、宮下くん小林先輩のメールアドレスを教えた。



『メアド教えるから連絡してみる?』

(2) 宮下くんが小林先輩にメールの返信をしていない。



『さあ一週間から忙しくなるぞー♪ (未返信)』

3. 小林先輩からメールをもらった吉田先輩はメールではなく電話をかけました。なぜメールではなく電話をかけたと思いますか。



『先輩が何か失礼をしましたでしょうか…。』

4. 本日の授業で学んだことを記入してみましょう。

2.6.3. 掲示用スライド

(1) 人物

◆宮下(副キャプテン)



◆高橋(キャプテン)



◆小林先輩(社会人)



◆吉田先輩(大学生)

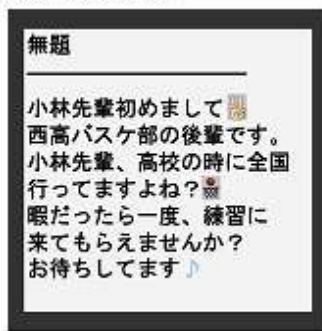


(2) 人物相関図



(3) キーシーン

◆宮下くんが小林先輩に送ったメール。



◆吉田先輩が直接、宮下くん小林先輩のメールアドレスを教えた。



◆宮下くんが小林先輩にメールの返信をしていない。

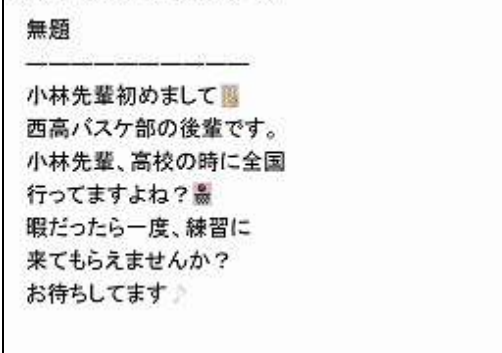


◆小林先輩からメールをもらった吉田先輩はメールではなく電話をかけた。

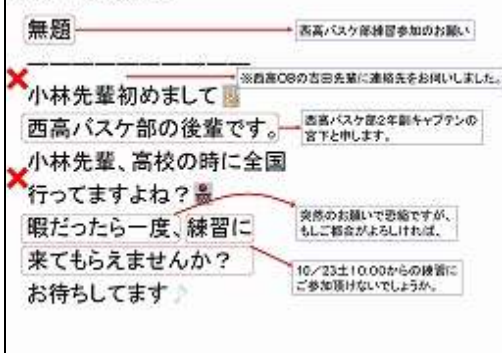


(4) メール画面

◆送信メール(宮下くんが送ったメール)



◆見本メール(活用例)



◆見本メール



◆見本メール(続き)



3. 指導マニュアル「『調べ学習』でのネット活用」

3.1. テーマ

中高生のパソコンの利用で最も多いのは、インターネットで調べものをするのだといわれています。インターネットは図書館などに比べて容易に最新の情報にアクセスできる一方、インターネットに掲載されている情報をコピー＆ペーストして丸映ししたり、真偽が不確かな情報を鵜呑みにしたり、検索結果の順位のみで情報の優劣を判断したりといった問題点が指摘されています。そのため、情報源の確認やさまざまな情報との比較を行う、クリティカルシンキング（情報を批判的に読み解く能力）や、自ら考え意見を発表するクリエイティビティ（創造性）について意識させる必要があります。図書館などの手段に加えて、インターネットを活用した適切な調べ学習の方法を学ぶことは、情報化社会への適応と創造的活動基盤の醸成に役立つと考えられます。

このような背景を踏まえ、ICTメディアリテラシー学習項目における下記の能力を育成することを目的とします。

- ◇ クリティカルシンキング
- ◇ クリエイティビティ
- ◇ 情報化社会への主体的参加

3.2. 対象

学校や家庭で実施する場合、中学生・高校生を対象とします。

ビデオクリップの設定背景は中学生向けですが、高校生でも利用できます。

3.3. ビデオクリップ（あらすじ）

月島中学校2年生の亜衣は持ち前の好奇心から、親友の真由を誘って図書室に掲示してあった「調べ学習コンクール」にチャレンジします。亜衣は父親のアドバイスでインターネットを使って調べ、真由は図書館で調べます。二人は毎日下校時刻まで調べ学習に没頭しますが、真由がブログ記事を見て、ふと“あること”に気づきます。

3.4. 授業・セミナーの学習目標

インターネットを活用した適切な調べ学習の方法について学びます。

- ◇ インターネット検索のポイントや気をつけること等の理解を深めます。
- ◇ 内容や状況に応じた情報の調べ方（本、インターネット、インタビュー等）の使い分けの必要性を意識します。
- ◇ 単に情報を調べるだけでなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識します。

3.5. 指導の展開例

流れ	時間	学習活動	指導上、運営上のポイント
導入	5分	【挨拶等】	以前に調べ学習を行ったことがあれば簡単に振り返りを行い、生徒に調べ学習でのネット活用について学習することを意識づける。
展開1	10分	【実習1と講義】 <考えるきっかけを提示> 設問「もったいない」(例)をテーマに、何かを調べ、それに基づいて自分の意見を発表するとしたら、あなただったら<何>を<どんな方法>で調べるか。 <挙手→発表>	<何>例:「残飯」「割り箸」「石油」等。 <どんな方法>例:「図書館」「書店」「手持ちの本」「インターネットで調べる」「人に直接聞く」「アンケートをとる」「新聞で調べる」「雑誌で調べる」「専門書で調べる」等。 <方法>については、以下の3つの方法に集約できることを板書で確認すると共に、4つめの方法はないか問題提起する。①本で調べる(新聞・雑誌含む)、②インターネットで調べる、③人に聞く、④自分で体験する)。
展開2	4分	【映像視聴】 ビデオクリップを視聴する。	「ふたりは、ブログ記事と本の文章を見比べて、どんな点が気になったのでしょうか。」と画面に表示された時点で映像を一時停止する。
	6分	【実習2と講義】 ①ワークシート1の気づいた点を赤ペンでチェックし、記入する。 ②気づいたことについて発表を行う。	①ブログでは情報を間違って認識している。 ②ブログでは本で述べられている考察を自分が考えた意見のように記載している。③本では情報の出所がきちんと明示されている。といったポイントの共通理解を図り、それらにどのような問題や意味(著作権の重要性等)があるかも説明する。
展開3	4分	【映像視聴】 一時停止したビデオクリップの続きを視聴する。	
	6分	【実習3と講義】 ①ワークシート2の2の本とインターネットの<気をつけたいこと>は何かを考えて記入する。 ②ワークシート2の3のもし父親だったら、どんなアドバイスをするか、考えて記入する。 ③それぞれ発表を行う。	本とインターネットの<気をつけたいこと>例:「古い情報ではないか」「間違った情報ではないか」「だまされていないか」「相手の著作権を侵害していないか」「相手の思惑(宗教や販売)に誘導されていないか」「信頼できるソースか」等。<インターネット検索のポイント>例:「上位検索以外にも目を向ける」「検索キーワードを工夫する」「公的機関等、信憑性のある情報ソースを参照する」等。
展開4	10分	【実習4と講義】 ①ワークシート3の4の垂衣と真由が工夫したことを考えて記入する。 ②ワークシート3の5に記入する。	<自分たちの経験を踏まえた主張>例:「持ち帰りを許可しているお店の人にインタビューした」「職場体験させて頂き食べ残される立場の体験をした」「ドギーバッグを自分たちで実際に使ってみた」等の具体例を紹介する。
まとめ	5分	【講義】 ネットに掲載されていない情報があること、直接体験したり、直接体験した人にインタビューしたりすることの大切さも知らせる。	「critical thinking」で情報を吟味し、自分の体験等を踏まえた creativity のある題材を使って情報化社会へ主体的参加していくことの大切さを示唆する。

3.6. 授業を構成する際の参考情報

インターネットやパソコンに慣れていない生徒の中には、インターネット上であっても「活字」で書かれた情報はすべて「正しい」といった認識を持っていることがあります。また、インターネット上のサービスは次々に新しいものが生まれており、注意を要するものもあります。

インターネットに関する生徒個々人の知識や認識にはかなりの差異があるので、まったく知識を持っていない生徒の存在も視野に入れて授業をする必要があります。

そのような場合、例えば、以下のような参考情報を適宜盛り込むのが役立ちます。

- インターネットは、基本的に会話や手紙や電話と同様の双方向性を持つコミュニケーションツールの一つであり、向こう側にもこちらと同じ生身の人間がいるという基本的なことを認識する。
- インターネット上において、自分がされて嫌なことはこちらもしない等の初歩的なことから、場に応じたマナーをわきまえる等、コミュニケーションのルールに則って使う必要がある。また、善意のつもりであっても、真偽が不確かな情報を不特定多数の人にメールで伝えるように促すこと(いわゆるチェーンメール)は、無用な混乱を招き、ルールに反するということを理解する。
- 雑誌や新聞など紙ベースのメディアは、書いた物についていくつかの工程を経て印刷・出版されており、責任の所在がある程度、明確である。一方、インターネット上のホームページ、日記、ブログ等などは、容易に公開でき、訂正も簡単なので、いつの時点で書かれた物なのか、本当に本人が書いた物なのかの確認が困難な場合がある。
- インターネット上で情報検索するツールとして「ロボット型検索エンジン」がある(指導の際には具体的な検索エンジンをいくつか紹介するとよい)。検索する際に、利用する言葉や空欄で単語をつなぐ方法、“”で閉じる方法等の初歩的な使い方、さらにロボット検索で上位にページがヒットする仕組み等を理解する。
- インターネット上の既存情報だけでは十分な情報が得られない場合には、インターネット上で質問ができる「Q&Aコミュニティサービス」が有用な場合がある(指導の際には具体的なサービスをいくつか紹介するとよい)。ただし、答えが正しいという保証はなく、単なる個人的な意見や悪意ある答えが書かれる場合もあるため、得られた情報の取り扱いには十分に注意する。
- インターネット上で情報交流するツールとして、「ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)」がある(指導の際には具体的なサービスをいくつか紹介するとよい)。中高生には「アバター」(インターネットコミュニティ上で使用される自分の分身となるキャラクター)を介した「チャット」(文字や音声等を用いた会話)やゲーム等が人気であり関心も高い。一方、コミュニティの性質上、年齢制限等を設けているサービスもあるため、中高生が不適切な利用をすることがないように注意する。
- 近年、短い文章を手軽にリアルタイムで発信して情報交流に利用できる「簡易ブログ」が注目されている。「手軽」「リアルタイム」といった特徴を活かして、ビジネスなど様々な場面で急速に活用されているが、災害など非常時での活用でさらに注目を浴びている。ただし、他のツールと同様、デマなど流される情報の信頼性に問題がある場合や、リアルタイムがゆえにプライバシーの流出等の課題もあるため、利用には注意する。
- ネットショッピングやオークションなど金銭が絡む場合は、名前を聞いたことがある企業のホームページだからといって、むやみに個人情報やクレジットカード情報を登録するには注意する。中には、企業の名前を騙ってメールアドレスを登録させ、架空請求メールを送るといった手口もある。こうしたホームページの見極めは容易に判断できないため、利用する場合には必ず大人が付き添うことを認識させる必要がある。また、インターネットオークションでは、ペニーオークションと呼ばれる入札するたびに手数料が必要となるものもあり、商品を落札できなくても多額の入札手数料がかかる場合があるので注意する。

3.7. 補助教材

3.7.1. ビデオクリップ（シナリオ）

【「調べ学習」でのネット活用】

「『調べ学習』でのネット活用」

◆あらすじ

月島中学校2年生の亜衣は持ち前の好奇心から、親友の真由を誘って図書室に掲示してあった「調べ学習コンクール」にチャレンジします。亜衣は父親のアドバイスでインターネットを使って調べ、真由は図書館で調べます。二人は毎日下校時刻まで調べ学習に没頭しますが、真由がブログ記事を見て、ふと“あること”に気づきます。

◆登場人物

亜衣…本作の主人公。月島中学校2年生。好奇心旺盛で新しいことにチャレンジするのが好き。



真由…亜衣の親友でクラスメート。読書家。しっかり者でいつも亜衣をサポートしている。



亜衣の父…普段はあまり亜衣と接する機会がないが、影ながら見守っている。ネットに詳しい。





【「調べ学習」でのネット活用】

◆シナリオ

No.	イメージ	セリフ
1		○図書室 『調べ学習コンクール』のチラシを見ている亜衣。 亜衣「ふ～ん、『調べ学習コンクール』か。」
2		○図書室 亜衣のもとへやってくる真由。 真由「亜衣、何見てるの？」 亜衣「あっ、真由。これね、全国の中学生が同じテーマでレポートを競うんだって。優秀なレポートは主催者のホームページに公開されるみたい。なんだか面白そうだから、一緒にやってみない？」 真由「どれどれ。『もったいない (MOTTAINAI) と思うこと』か。そういえば…」
3		○教室（回想） 壇上でレポートを発表する亜衣と真由。 真由「この間グループ学習で『給食の食べ残し』について調べたね。学校全体でもたくさんの食べ残しが出ていて、本当にもったいないって思った。」 ○図書室 やる気が出てきた亜衣と真由。 亜衣「それ、いいかも！まずは、日本でどのくらいの食べ物が捨てられているのか、調べてみよう。」 真由「そうだね！」
4		○図書室 本を読んだり、勉強している生徒たち。 <タイトル：『「調べ学習」でのネット活用』>
5		○図書室 図書室で調べている亜衣と真由。 生徒が少しずつ減っていき、下校時刻が近づく。 真由「ふ～。食べ物に関する本って結構たくさんあるね。そっちはどう？」 亜衣「う～ん。環境問題に関する本もたくさんあるよ。ただ、どこから手をつけていいかわからないな。」 真由「それに、新しい本はもう借りられちゃっているみたい。」 亜衣「うーん…。新しい情報なら、新聞に載っているかも。家に帰って調べてみるね！」 真由「うん！」


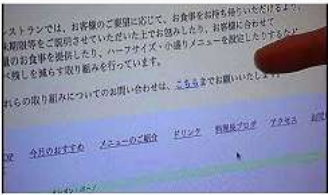
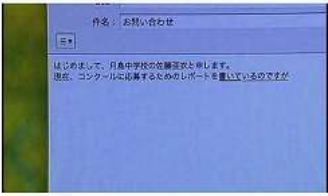

【「調べ学習」でのネット活用】

No.	イメージ	セリフ
6		<p>○亜衣の家・リビング（夜） ソファで本を読む父。 そこへやってくる亜衣。</p> <p>亜衣「お父さん、新聞どこ？」 父「新聞なら、今朝、お母さんが古紙回収に出したよ。」 亜衣「え～！『調べ学習コンクール』に出すレポートを書くために必要なのに…。」 父「それなら、インターネットで検索してみたらどうだ？」 亜衣「そっかー！」 父「わからないことがあったらお父さんに聞きなさい。」 亜衣「うん、ありがとう！」</p> <p>パソコンのある方に移動する亜衣。</p>
7		<p>○亜衣の家・リビング（夜） パソコンを操作する亜衣。</p> <p>亜衣「…食…べ…残…し」</p> <p>『食べ残し』の検索結果が表示される。</p>
8		<p>○亜衣の家・リビング（夜） さり気なく亜衣の様子を見守る父。</p> <p>亜衣「へー、食べ残しに関するニュースやブログ記事がいっぱいある～。図書館ではみつからなかった新しい本の紹介や食品廃棄物の最新データもある！明日、真由に見せよう。」</p>
9		<p>○学校・中庭（翌日） 登校する亜衣と真由。</p> <p>真由「亜衣、昨日どうだった？」 亜衣「うん、ばっちり。食べ残しに関するニュースやブログ記事があつという間に見つけたよ。」</p> <p>昨晚の検索結果をプリントアウトした紙（2～3枚）を鞆から取り出し、真由に渡す亜衣。</p> <p>真由「やるね～！私も昨日帰りに市の図書館に寄って、去年の食品廃棄物のデータを見つけたんだ。他にもいろいろな本を借りてきたから、手分けして書いてみよう！」 亜衣「うん！」</p>




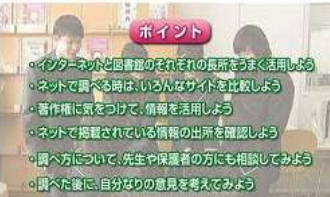
【「調べ学習」でのネット活用】

No.	イメージ	セリフ
10		<p>○学校・教室 下校するクラスメート。 レポート作成に没頭する亜衣と真由。</p> <p>真由「よし！できた！亜衣、そっちはどう？」 亜衣「私もできたよ。ほら！」</p> <p>ブログ記事を渡す亜衣。</p> <p>真由「…あれ？この記事、なんだか変じゃない？」</p> <p>真由の側に移動しブログ記事と本の文章を見比べる亜衣。</p> <p>亜衣「あっ、本当だ！」 真由「この記事、どこから持ってきたの？」 亜衣「ブログから…」</p> <p><フェードアウト></p>
11		<p><テロップ：「ふたりは、ブログ記事を本の文章を見比べて、どんな点が気になったのでしょうか。」></p>
12		<p>○亜衣の家・リビング（夜） ブログ記事を読む父。</p> <p>父 「このブログ記事はどうやって探したの？」 亜衣 「インターネットで検索して、一番最初に出てきた記事だよ。」 父 「これだけじゃわからないな。最初に出てきた記事が正しいとは限らないよ。もっと他の記事も調べたり、違うキーワードで検索してごらん。」 亜衣 「うん、わかった！」</p> <p>検索する亜衣。亜衣の側で画面を見る父。</p> <p>亜衣 「あっ、他のサイトにも本と同じ文章が書いてある。」 父 「ブログは他人の意見を知ることができて便利だけど、本を丸写ししている人もいるんだ。だから、そのまま鵜呑みにしないで自分で調べることが大切だよ。」</p> <p>ダイニングチェアに座る父。</p> <p>父 「そもそも他人の意見をそのまま書いてしまったら、つまらないだろう？」 亜衣 「うん、そうだね。調べ方がわかったら、おもしろくなってきた！もう少し調べてみる！」</p>

【「調べ学習」でのネット活用】

No.	イメージ	セリフ
13		<p>○学校・教室 下校のチャイム。 帰り際に亜衣と真由を応援するクラスメート。 真由にドギーバッグの記事を見せる亜衣。</p> <p>亜衣「ねえ、真由。『ドギーバッグ』って知ってる？昨日ネット検索で出てきたんだけど、外国のレストランでは、食べ切れなかった食べ物をこのバッグに入れて持ち帰ることができるんだって。」 真由「その情報、私も図書館で見つけたよ。でも、日本ではお店の人が衛生面に配慮して、持ち帰りを断ることが多いみたい。」 亜衣「確かに、お店にとっては心配だね。」 真由「実際に食べ物の持ち帰りを許可しているお店では、どういう工夫をしているのかな？」 亜衣「そこがポイントだね。今晚調べてみるよ。」</p>
14		<p>○亜衣の家・リビング（夜） パソコンの前に座り、父に尋ねる亜衣。</p> <p>亜衣「お父さん、食べ物のお持ち帰りを許可しているお店がどんな工夫をしているか調べたいんだけど、ネットには出てこないや。どうしたらいいかな？」 父「そういうこともあるよね。それならお店に直接聞いてみたら？ほら、このお店のホームページに、“問い合わせはこちらに”ってメールアドレスが書いてあるよ。」 父「始めに、自分の名前を名乗って、用件を簡潔に伝えるんだよ。」</p>
15		<p>○パソコンのメール画面 緊張した様子の亜衣。</p> <p>亜衣「うん。ええと…。はじめまして、月島中学校の佐藤亜衣と申します。現在、コンクールに応募するためのレポートを書いているのですが…」</p> <p><フェードアウト></p>
16		<p>○回想シーン 図書館で調べている亜衣と真由。 インターネットで調べている亜衣。 図書館で調べている真由。 校庭のベンチであれこれ話しをしている亜衣と真由。</p> <p>亜衣（モノローグ） 「こうして、私たちはインターネットや本からたくさんの情報を集め、それに自分たちの意見を加えて、レポートを完成させました。」</p>

【「調べ学習」でのネット活用】

No.	イメージ	セリフ
17		<p>○学校・教室 教室でレポートを完成させ、喜ぶ亜衣と真由。</p> <p>○学校・外観 数日後。</p> <p>亜衣（モノローグ） 「そして、今日は『調べ学習コンクール』の結果発表の日です…。」</p>
18		<p>○学校・パソコンのある部屋 パソコンの前で結果を待つ亜衣と真由とクラスメート。</p> <p>真由「亜衣、コンクールの結果、そろそろ発表されているんじゃない？見てみようよ！」 亜衣「うん！」</p> <p>マウスを動かす亜衣。 緊張した面持ちの亜衣と真由。 画面を覗き込む亜衣と真由とクラスメート。</p>
19		<p>○学校・パソコンのある部屋 いよいよ結果発表。</p> <p>亜衣「（審査員のコメントを読む）なにになに…。 『優秀賞』!!」</p> <p>喜ぶ全員。</p> <p>亜衣「『あなた方のレポートはきちんと調べてある上に、自分たちの経験を踏まえた主張があり、大変ユニークで素晴らしいものでした』だって！」 亜衣と真由「やったね！」</p> <p>ハイタッチする亜衣と真由。</p> <p>真由「ネットはきちんと使えば、調べる時の強い味方になるね。今回は良い勉強になったなあ。」 亜衣「そうだね。真由、またコンクールがあったら応募してみようね！」</p> <p>クラスメートと喜び合う亜衣と真由。</p> <p><完></p>
20		<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットと図書館のそれぞれの長所をうまく活用しよう ・ネットで調べる時は、いろんなサイトを比較しよう ・著作権に気をつけて、情報を活用しよう ・ネットで掲載されている情報の出所を確認しよう ・調べ方について、先生や保護者の方にも相談してみよう ・調べた後に、自分なりの意見を考えてみよう

【ワークシート1】

テーマ：「調べ学習」でのネット活用

年 組 番 氏名

1. 亜衣と真由は本の文章とブログ記事を見比べて、いくつかの点に気がつきました。2つを見比べて、あなたが気づいたことを指摘してみましょう。



〈本の文章〉

食品廃棄物の現状

農林水産省の「食品ロス統計調査（平成 15～19 年度）」によると、日本では年間 1,900 万トンの食品廃棄物が排出されている。このうち、食品製造業（食品メーカー）、食品卸売業・小売業（スーパー、百貨店など）、外食産業（レストランなど）といった食品関連事業者からの廃棄物は 800 万トン、一般家庭からの廃棄物は 1,100 万トンである。

一般家庭からの廃棄物が多いのは、調理の際に本来食べられる部分まで捨ててしまったり、食べ残しをしたり、賞味期限切れなどにより食べ物をそのまま捨ててしまったりすることが原因だといわれている。

我々が食品廃棄物を減らすためには、野菜の葉や皮などもできるだけ調理して食べる、食べられる分だけ器によそう、買い物に行く前に冷蔵庫をチェックする、安易にまとめ買いしないなどの工夫が必要である。

〈ブログ記事〉

20XX 年 XX 月 XX 日

一般家庭から排出される食品廃棄物は年間 1,900 万トン！

日本では一般家庭から年間 1,900 万トンの食べ物が捨てられているようだ。

一般家庭からの廃棄物が多いのは、調理の際に本来食べられる部分まで捨ててしまったり、食べ残しをしたり、賞味期限切れなどにより食べ物をそのまま捨ててしまったりすることが原因だと思う。

食品廃棄物を減らすためには、野菜の葉や皮などもできるだけ調理して食べる、食べられる分だけ器によそう、買い物に行く前に冷蔵庫をチェックする、安易にまとめ買いしないなどの工夫が必要だと思う。

〈気づいたこと〉

【ワークシート2】

テーマ：「調べ学習」でのネット活用

年 組 番 氏名 _____

2. 亜衣と真由はインターネットと本を使って調べ学習を行いました。



インターネットと本で調べ学習をするときに、どんなことに気をつけるか、下の表に書き出してみましょう。

	インターネット	本
気をつけること	<ul style="list-style-type: none">・・・	<ul style="list-style-type: none">・・・

3. 亜衣は、一人ではうまくインターネット検索ができなかったので、父親に相談したところ、楽しく感じられるほど、情報検索の腕前が上達しました。



あなたが父親だったら、亜衣に、どんなアドバイスをしますか。あなたの知っているインターネット検索のポイントについて、下の表に書き出してみましょう。

インターネット検索のポイント
<ul style="list-style-type: none">・・・

【ワークシート3】

テーマ：「調べ学習」でのネット活用

_____年 組 番 氏名_____

4. 亜衣と真由のレポートは調べ学習コンクールで優秀賞を受賞しました。

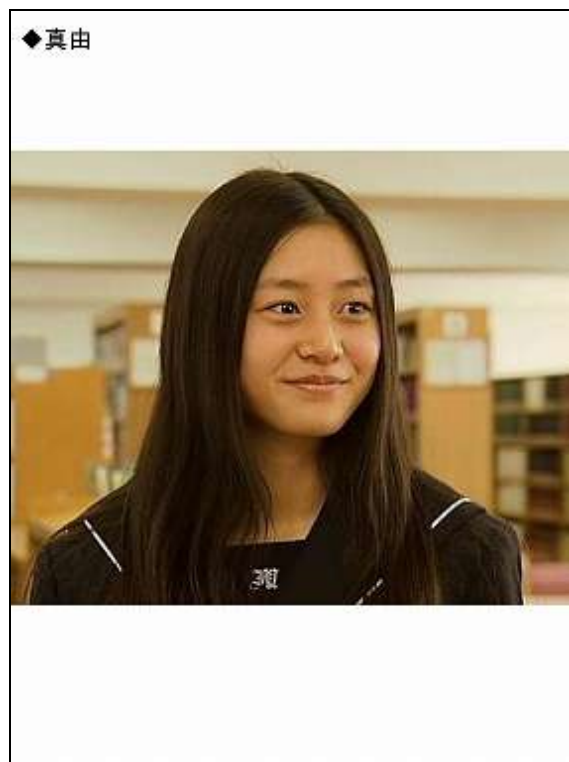
受賞の決め手は何だったと思われますか。
亜衣と真由はどんな工夫をしたのでしょうか。
あなたの意見を記入してみましょう。



5. 本日の授業で学んだことを記入してみましょう。

3.7.3. 掲示用スライド

(1) 人物



(2) キーシーン

◆本の文章とブログ記事の見比べ



◆インターネットと本を使った調べ学習



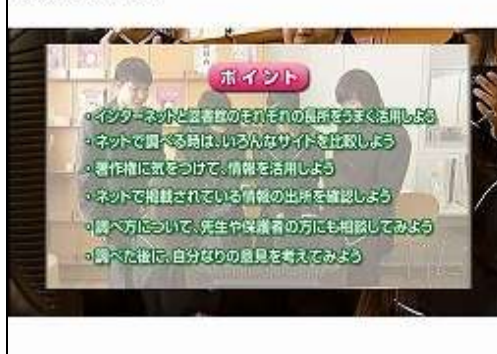
◆インターネット検索のポイント



◆調べ学習コンクールで優秀賞受賞



◆調べ学習のポイント



4. 参考資料

4.1. 新たなウェブサービスと学習利用

ICTメディアの日進月歩の技術革新が進むにつれて、新たなICTメディアの学習利用が進んでいます。これまで、ICTメディアの学習利用といえばDVDなどの視聴覚教材が中心でしたが、新しく生まれる各種のウェブサービスを利用することで、よりインタラクティブで効果的な学習を行うことができるようになっていきます。

例えば、最近のオンライン語学学習サービスでは、ウェブ上で単語の綴りをタイプすると正否がすぐわかるだけでなく、間違えやすい単語を自動的に記憶して、学習者が忘れたところに出題するなどICTならではの便利な機能もあります。また、コミュニティ機能を設けて、学習者同士の“教えあい・学びあい”を促しています。

ICTメディアの進歩は早く、新しい技術やサービスは次々に生まれています。それぞれには特徴・特性があります。それを理解した上で賢く活用すれば、コミュニケーションにおいても、学習の手段としても、得るところも大きいでしょう。例えば、何かを調べる時に、ウェブの検索サービスを使うのが一般的ですが、SNSやブログなどで信頼できるネット上のコミュニティに問い合わせることで発展的に学習することも可能です。

情報化社会を生き抜く上で、このような新たなICTメディアを使いこなす能力が求められています。

新しいウェブサービスの特徴と学習利用

ウェブログ(ブログ)	<ul style="list-style-type: none">・ウェブサイト上の簡易な日記のようなもの。・過去に書き留めた内容の検索や整理が容易にできる。
SNS(ソーシャル・ネットワークング・サービス)	<ul style="list-style-type: none">・利用者間での情報共有や、コミュニティ形成ができる。・誰に何を聞けばいいのにも使える。
簡易ブログ	<ul style="list-style-type: none">・ブログとSNS・チャットの間のようなサービス。・短文を投稿することで、様々な人々とコミュニケーションが容易にできる。
集合知・共有サイト	<ul style="list-style-type: none">・有志によるオンライン辞書の作成が進んでおり、誰でも利用できる(ただし、利用する際には、情報の出所を確認することが必要である)。
ポッドキャスト	<ul style="list-style-type: none">・音声や動画によるコンテンツの配信が可能で、語学学習や授業配信などに利用されている。
高度検索技術・サービス	<ul style="list-style-type: none">・文字による検索だけでなく、画像、動画、ニュース、地図、ブログなども検索できる。・例えば、地図検索を組み合わせると、地理や歴史の学習ができる。

5. 保護者の方へ

子どもたちがインターネットや携帯電話等の ICT メディアに接する機会が多い家庭において、日頃から保護者の方が子どもたちの ICT メディアの利用方法を把握し、基本的なマナーについて話し合ったりすることで、子どもたちが大きな失敗を起こしたり、事件に巻き込まれたりすることを未然に防ぐのに役立ちます。

例えば、家族の共用パソコンをリビングなど目の届く場所に置いたり、電車内や病院内など公共の場での携帯電話のマナーを教えたり、子どもと話し合って携帯電話の利用時間を決めたりするなど、既に多くの家庭で身近な取り組みを実践されていることと思います。

しかし、もう一步踏み込んだ指導となると、具体的にどうすれば良いのか悩んでしまうという声も保護者の方から聞こえてきます。そこで、題材の一つとして活用して頂きたいのが、本教材の「TPO に応じたメールマナー」や「『調べ学習』でのネット活用」です。これらを使って、ICT メディアを考える機会を積極的につくり、ルールやマナーを身につけると共に、どのようにすれば普段から賢く活用できるかについて、保護者が子どもたちと一緒に家庭で振り返るきっかけをつくっていただければと考えております。

ICT メディアが果たす役割や有用性などを保護者の方が十分に理解し、子どもとともに ICT メディアを有効に活用するためのリテラシーを培うことは、これからの情報化社会を生きていく上での鍵となります。本教材がその一助となれば幸いです。